



茨城県

農業土木

職種紹介パンフレット



茨城県農地局イメージキャラクター
水田三ジューシー®

農業生産の基盤である水田や畑の整備、老朽化した農業水利施設の計画的な補修・更新等のため、農業農村整備に係る調査や計画策定、工事の設計・監督を行います。

農業農村整備の概要

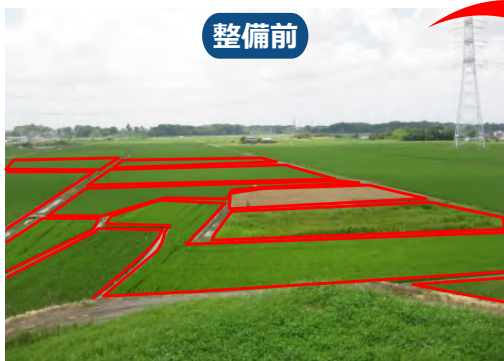
1 「儲かる農業」の実現に向けた基盤づくり

- 農業を魅力ある産業として次世代に確実に引き継ぐため、収益性の高い「儲かる農業」の実現を目指しています。
- 「儲かる農業」の実現に向け、農業者が効率的、安定的に農業経営できるような基盤づくり（＝基盤整備）を行っています。



水田では

- ・ ほ場の大区画化と併せて、大規模農業者へ集積・集約
- ・ 米以外の高収益作物の生産（水田畑利用）に向けた排水整備
- ・ さらなる生産性向上に向けたICT自動給水栓等の新技術の活用



整備前



整備後

ほ場の大区画化



ICT自動給水栓の導入

畑地では

- ・ 農業者の経営規模（集積・集約）、経営品目に応じた畑地整備
- ・ 天候に左右されない、安定的な農業生産に向けた用水（畑地かんがい）施設や排水施設の整備、生産性向上に向けた農道整備



整備した地区での野菜作付



畑地かんがいの導入



農道の整備

2 農村地域の防災・減災対策、インフラ長寿命化



- 近年頻発化・激甚化する自然災害に備え、農業用ため池や排水機場の整備、「田んぼダム」の取り組みを進めています。
- 将来にわたり安定的に営農できるよう、老朽化の進む農業水利施設（水路やポンプ場など）を、計画的に補修、更新しています。



農業用ため池の整備



田んぼダムの取組



水路の更新

3 農村地域の活性化



- 農村環境の整備や、地域コミュニティの醸成等への支援を通じて、持続可能な農村づくりを進めています。

農業・農村の多面的機能の維持・発揮



地域共同による
維持管理活動

農村環境美化活動

豊かで住みやすい農村環境の整備



農業集落排水施設



広域農道

鳥獣被害防止対策の推進



イノシシ被害防止のための電気柵

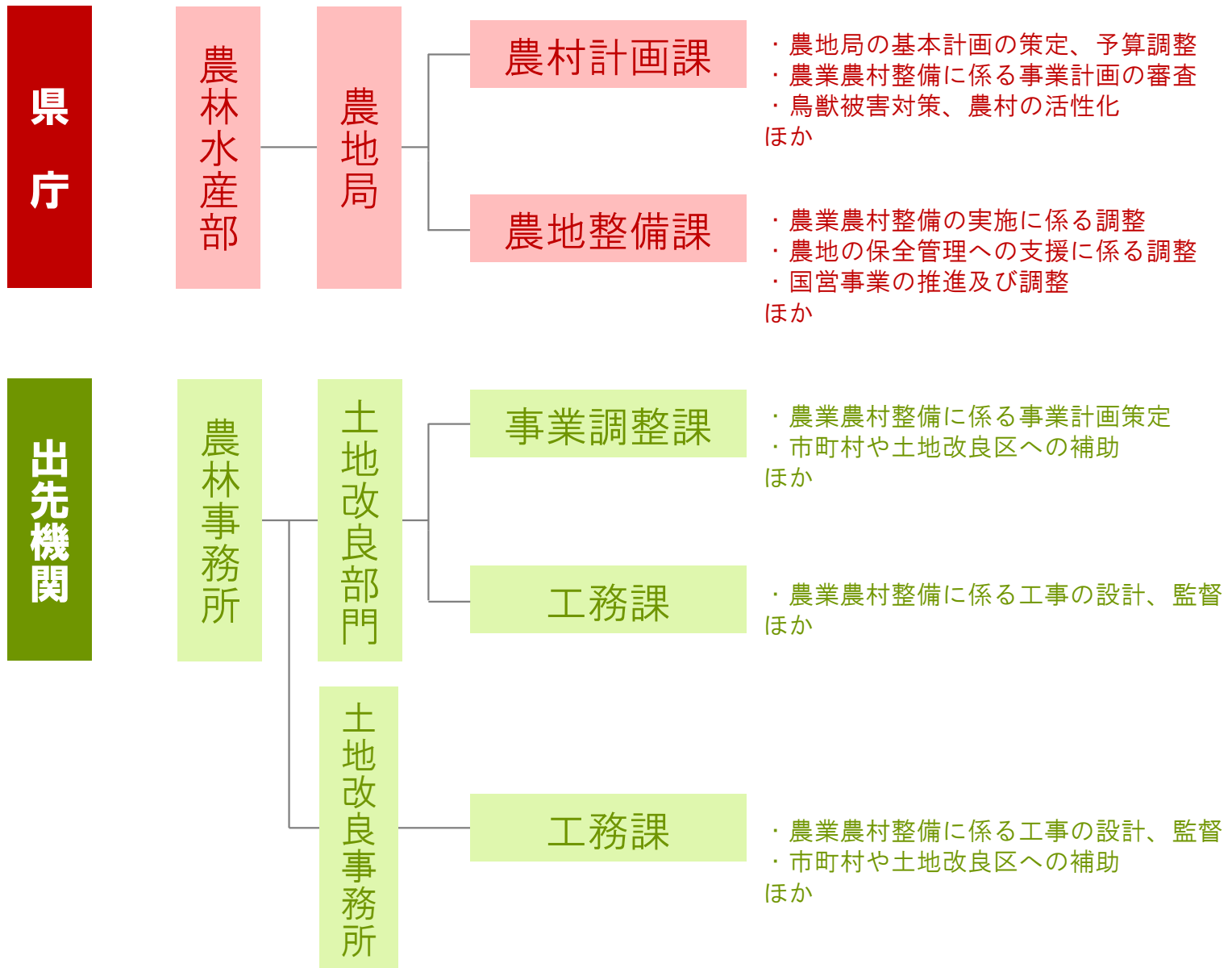
地域間交流・定住の促進



都市農村交流・農泊

農業土木職の組織体制・主な業務

- 農業土木職で採用されると、県庁や出先機関で農業農村整備に関する業務を担当します。
- 県庁では主に施策立案、予算事務、県議会对応、国との調整を担当、出先機関では現場で県民と接しながら、主に事業計画策定や工事施工を担当し、県庁と出先機関で連携しながら業務を進めています。



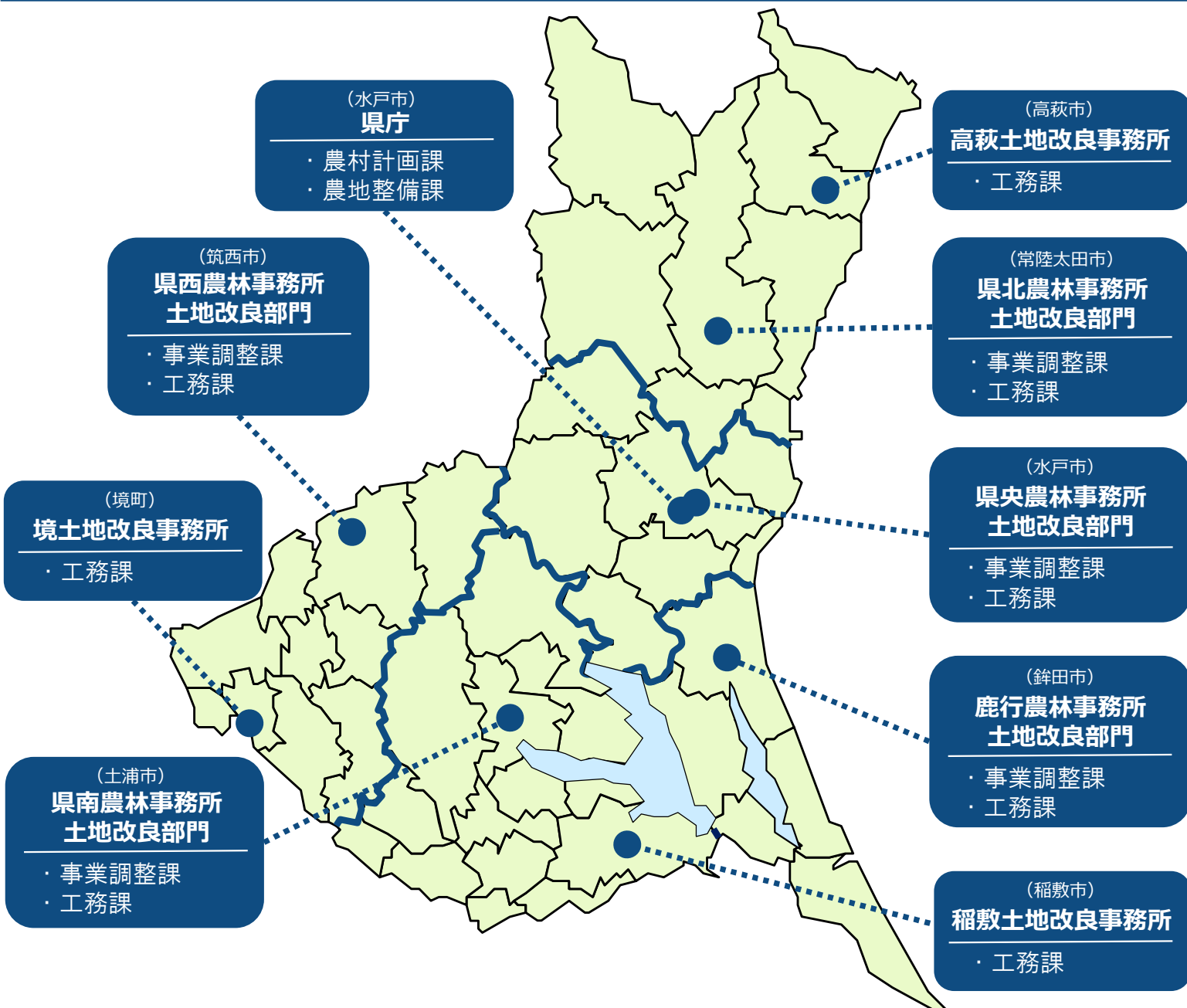
農業土木職の職員数

2026年4月1日現在

県 庁		出 先 機 関		その他 ※	合 計
農村計画課	農地整備課	土地改良部門	土地改良事務所		
15	18	87	25	15	160

※農地局外の部署等（災害地派遣含む）

主な配属先



異動・キャリアパス

異 動

- 新規採用職員は、基本的に出先機関に配属され、概ね3年間勤務した後に初めて異動となります。
- その後も、概ね2～3年サイクルで異動となります。

キャリアパス

- 職員の昇任について、採用時の職歴や学歴にとらわれず、能力・実績主義の原則に基づき、公平・公正に選考されます。

(キャリアパスの例)

技師

主任

係長

課長補佐

課長

給与・勤務条件



給与

- 初任給（大卒程度）：256,608円（2026年4月1日現在）
- そのほか、地域手当、通勤手当、住居手当等の諸手当が支給されます。

勤務時間

- 原則8:30～17:15ですが、6:30～15:15から、13:00～21:45まで柔軟に勤務（時差出勤）することができます。

休暇

- 完全週休2日制（土日祝）
- 年次休暇（有給）は、1年につき20日（ただし、4月採用の場合は採用年のみ15日）付与されます。（年間最大40日保持可能）
- このほか、夏季休業（5日間）、育児休業、特別休暇（結婚・忌引、介護等）などの各種休暇制度があります。

人材育成制度



メンター制度

- 新採職員には、同じ職場の中堅職員（30～40代）がメンターとして1年間付き、仕事のやり方など気軽に相談できる環境が整っています。

研修制度

- 新採研修（新規採用職員）
これから仕事を進めていく上で身につけておかなければならない、公務員としての心構えや必要となる基礎的な知識及び技能を習得します。
- 専門研修（農業土木職）
農業農村整備に関する講義や、農業土木職の業務遂行に必要な知識・技能を習得するための各種研修があります。
- このほか、各職層に応じて求められるスキルを習得するための各種研修制度があります。



主任 皆川 知也

2014年採用
農林水産部農地局農村計画課

< 経歴 >

2014～2016年
県北農林事務所高萩土地改良事務所

2017～2019年
県西農林事務所土地改良部門

2020～2021年
県央農林事務所土地改良部門

2022～2024年
県南農林事務所土地改良部門

2025年～
農林水産部農地局農村計画課

< ある1日のスケジュール >

出勤前	6:00	起床
	7:00	自宅出発
	8:20	出勤
午前	8:30	メールチェック
	10:00	予算関係資料作成
	12:00	昼休み
午後	13:00	現地調査・打合せ
	16:00	打合せ報告書作成
	17:00	照会事項等対応
退勤後	17:15	退勤 帰宅
	19:00	夕飯、風呂
	21:00	家事、ほか自由時間
	23:00	就寝

1 農業土木職を志望した理由は？

田んぼや畑が身近な環境で育った経験から、子どもの頃から農村地域に関わる仕事に就きたいと思っていました。また、大学で学んだ知識が活かせる農業土木職の仕事に魅力を感じ、志望しました。

2 現在の仕事内容は？

「基盤整備」の推進に関する業務を担当しています。具体的には、国との連絡調整、農地局全体の予算の調整などを行っています。

3 これまでで印象に残った仕事は？

最初に配属された高萩土地改良事務所で担当した集落道路整備です。小学生の通学路にもかかわらず、非常に狭いうえに、樹木に覆われており昼間でも暗く危険な道路でしたが、整備によって広く明るい安全な道路へと生まれ変わりました。不慣れな中での地元調整や設計など大変な面もありましたが、周辺住民の方々から感謝の言葉をいただき、大きな達成感を覚えました。

4 県のイメージに変化は？

公務員に対しては「お堅い」「保守的」といったイメージがありましたが、実際には、アツい想いと柔軟な発想を持った職員が多く、日々刺激に満ちた職員生活を送っています。業務では前例踏襲ではなく、地域をより良くするため、積極的に挑戦しPDCAサイクルを回していくことが重要であることにギャップを感じました。

5 試験対策はどんなことをしていた？

専門試験に関しては、「農業土木職採用試験 精選問題と解説」（農業土木職試験問題研究会）を解きました。教養試験に関しては、参考書を解きつつ、時事問題に対応するため、ニュースや県HPをよく見るようにしていました。

面接試験に関しては、大学で模擬面接を行い、先輩等からもアドバイスをもらっていました。

6 農業土木職を目指す人へメッセージ

多様な人、現場、知識に関わることができる農業土木職は、自身の成長も感じられる魅力的な仕事だと思います。農村地域を守る、責任の大きい仕事でもあります。必要以上に気負う必要は無く、アツい先輩たちがサポートしてくれますので、安心して目指して欲しいと思います。

他にも先輩メッセージが
茨城県ホームページに
掲載されているので、
是非ご覧ください！👉

